



Ruby biz Grand prix 2016



審査委員長と昨年の大賞受賞企業が語る

サービスや技術力のアピールにより ビジネスの拡大とリクルーティングに効果

昨年に続き2回目となった「Ruby biz Grand prix 2016」の授賞式が、2016年12月15日、東京帝国ホテルにて開催された。受賞した8社は、いずれもユニークなサービスを提供し、社会に革新をもたらしている。「Ruby biz Grand prix 2016」の授賞サービスを紹介していく本シリーズの第1回は、審査委員長まつもとゆきひろ氏と、前回大賞を受賞した2社に話を聞いた。

昨年同様困難を極めた審査で 選ばれた受賞企業は8社

島根県が主催する「Ruby biz Grand prix 2016」は、「ビジネスの領域においてプログラム言語Rubyの特徴を活かして、新たなサービスを創造し世界へ発信している企業、団体及び個人を対象としたグランプリ」である。もちろん、優れたサービスを実現するには高度なテクノロジーが欠かせないが、それだけでは本アワードを獲得することはできない。ITエンジニアの創造力とともに、成長・進化し続けるRubyのエコシステムへの積極的な貢献等も評価の対象だ。

「Ruby biz Grand prix 2016」に応募した企業は全部で29社。審査委員長でRubyの生みの親であるまつもとゆきひろ氏は、「残念ながら応募総数は昨年より1社減ってしまいましたが、全体のレベルは昨年よりも上がったという印象があります。結果、審査は困難を極め、当初予定の大賞2社、特別賞3社ではカバーしきれず、グローバル賞1社、ソーシャルイノベーション賞2社を加えた8社を表彰することにしました」と語っている。

今回の「困難な審査」を勝ち抜いて受賞したのは、前述の8社である。各サービスの紹介は、第2回と第3

回で順次紹介するが、そのサービス対象は、エンジニア、企業、個人とさまざまで、開発ツールがあるかと思えば、幼稚園や病院向けのサービスもあり、非常に多分野に展開している。前回と今回の応募事例一覧を見ても明らかとなり、事例の多彩さは、そのままRubyの活用範囲の広さを証明している。もはやRubyは、Webサービスになくてはならないものとなっている。

異彩を放っている3社に 新たな2賞を創設

審査員は、まつもと氏を委員長に、オープンソース活用研究所 代表取締役所長 寺田雄一氏、Rubyアソシエーション 評議員・楽天 執行役員 森正弥氏、日経BP社 日経コンピュータ 編集長 中村建助氏、日本郵政 執行役 正村勉氏、Rubyアソシエーション 理事 笹田耕一氏の6名。昨年と同じメンバーである。

「私は今年からラクスルの技術顧問を務めているので、その審査の際は、棄権しました」と語るまつもと氏。今回の8社は、彼らによる厳正な審査の末、選り抜かれた。

昨年は、大賞、特別賞の他に、エンタープライズパイオニア賞として2社が受賞したが、今年は、新たにグロー

バル賞とソーシャルイノベーション賞が創設され、計3社が受賞した。この新たな賞についてまつもと氏は、「大賞と特別賞の他に、どうしても表彰したいという事例が3つ残った結果、この名前をつけました。したがって、来年はまた別の名前になるかもしれませんが」と笑う。

国内企業へのいいPRとなり さらなる普及に向けた 体制づくりも加速

今回の表彰式は、2回目ということもあって、前回の受賞企業の代表も招かれた。クラウド型ビッグデータ基盤サービス「Treasure Data Service」、データログ収集ツール「fluentd」とデータ転送ツール「embulk」で受賞したトレジャーデータからは、ソフトウェアエンジニア 田籠聡氏が参加。授賞式で、今年の受賞企業を称えるとともに、同社の受賞後の反響などについて語った。

受賞後同社がまず行ったのは、ロゴの変更。「いただいたトロフィーに刻まれたロゴが見つらく、これは問題だということになり、より視認性の高いロゴに変更しました。いいきっかけとなりました」（田籠氏）

もちろん、ビジネス面でも大きな変化があった。fluentdが、米Linux

受賞企業一覧

大賞



特別賞



グローバル賞



ソーシャルイノベーション賞



INDEX

3 Vol.1 審査委員長と昨年の大賞受賞企業が語る
サービスや技術力のアピールにより
ビジネスの拡大とリクルーティングに効果

5 Vol.2 「Ruby biz Grand prix 2016」大賞は
クラウド請求管理サービスMisocaと
オンライン求貨求車サービスのハコベル

9 Vol.3 「Ruby biz Grand prix 2016」を彩る
開発、コミュニケーション、健康・医療など
多岐にわたる多彩なサービス



まつもとゆきひろ氏





Foundation傘下の「Cloud Native Computing Foundation」の4番目のプロジェクトとなり、大人気アプリ「ポケモンGO」のインフラに関与するなど、世界的にも大きな飛躍を遂げた。また、日本政府が出資する産業革新機構をはじめとする国内外の組織から合計2500万ドルの出資を受け、国内ではNTTデータと協業。「今後の普及に向けて、信頼性の高いサポートサービスを提供できるようになりました」と田籠氏。もちろん、これらのすべてが「Ruby biz Grand prix」の受賞と関係しているわけではないが、米国を本拠地とする同社にとって、「国内企業へのいいPR」(田籠氏)となったことは間違いない。

新規開拓を促進するとともにエンジニア獲得に効果

昨年の大賞受賞企業のもう1社であるPOSレジサービス「ユビレジ」を提供するユビレジからは、代表取締役社長の木戸啓太氏が参加。懇親会で乾杯の音頭をとった。木戸氏も、「Ruby biz Grand prix」受賞後、「メディア露出が増え、問い合わせが増えました。その結果新規開拓が進みました」と、その効果を語っている。実際2016年には、ユビレジの利用企業で、レストランチェーンを経営

する「株式会社きちり」を開発パートナーとして迎え、より現場のニーズに応える体制を整えるなど、着実にビジネスを拡大している。

さらにもう1つ同社にとって大きかったのは、リクルーティングに大きな効果があったことだ。現在優秀なエンジニアは、どこでも不足感が強く、その獲得には苦労している。Rubyを銘打ったビジネスアワードを獲得することで、Rubyの活用をエンジニアに対して広くアピールできるチャンスとなったようだ。木戸氏は、「『Ruby biz Grand prix』は、Rubyを使っている企業なら応募しない理由はないでしょう。サービスや技術力をPRするいいきっかけになるので、ぜひどんどんチャレンジしてほしいですね」と語っている。

Rubyの活用をアピールするチャンスにしてほしい

「Ruby biz Grand prix」は、来年も開催が決まっている。

田籠氏や木戸氏の言葉通り、「Ruby biz Grand prix」は、サービスや自社の技術力をアピールする絶好の機会だ。既にRubyの利用はあたりまえになっており、特にWebサービス系のスタートアップ企業の多くが活用している。しかし、開発言語はあくまでも裏方なので、自ら語らなければ表に出ることはない。その点「Ruby biz Grand prix」は、Rubyで開発したからこそ、このサービスが実現できたことがアピールできるいい機会だ。

「このような賞を取れば、Rubyの活用をアピールする機会となると思います。話題となって商談が進むというのもあると思いますが、特にリクルーティングに効果が高いと聞いています。あそこに行けばRubyで面



トレジャーデータ株式会社
ソフトウェアエンジニア
田籠聡氏



株式会社ユビレジ
代表取締役社長
木戸啓太氏

白いことができそうだとエンジニアが思ってくれば、優秀な人材の獲得にもつながります。ぜひそういう面でも活用してほしいですね」(まつもと氏)。

最後にまつもと氏は、「Rubyの特徴は、生産性が高いことです。その結果、ライバルよりも早くサービスを開始できたという話はよく聞いているので、その特徴を活かして、世の中を変える可能性のある多彩なサービスが、どんどん出てくるのを見たいと思っています」と締めくくった。



「Ruby biz Grand prix 2016」大賞は クラウド請求管理サービスMisocaと オンライン求貨求車サービスのハコベル

2016年12月15日に東京帝国ホテルにて授賞式が開催された「Ruby biz Grand prix 2016」。第2回となる本アワードは、ビジネス領域に特化し、優れたRuby活用事例を表彰するもの。今回、栄えある大賞に選定されたのは、Misocaとラクスルである。Misocaが受賞したサービスは、同名のクラウド請求管理サービス。一方のラクスルは、オンライン求貨求車サービスのハコベルである。この2社に、各サービスの概要や特長、開発言語としてRubyを選んだ理由などを聞いた。



大賞

株式会社Misoca

請求書の作成から郵送回収保証まで提供

Misocaは、見積書から納品書や請求書を作成したり、請求書を自動作成できるクラウドサービスである。フリーランスにとって各種伝票の発行・送付は結構負担。とはいえ、収入を得るには絶対に欠かせない業務

なので、どんなに忙しくてもやらないわけにはいかない。

Misocaは、そんなフリーランスやSOHOが、簡単に伝票の作成や管理などを任せられるWebアプリケーションだ。基本サービスは無料で、各種伝票にはテンプレートも用意されている。フリーになったばかりで請求書の書き方もわからないという人で

も、取引先や件名、金額などを入力するだけで簡単に作成できる。

請求書の発行やオンライン送信をするサービスなら他にもあるが、Misocaがそれらと一線を画するのは、1通から郵送対応(有料)までしてくれるところ。伝票をオンラインで送信できれば手軽だが、取引先があることなので、そのやり方を一方的に変えることはできない。社会的にペーパーレスが推奨されているとはいえ、まだまだお金に関わる業務では原本が主流。その点、Misocaなら作成した請求書を郵送してもらえるので、取引先の業務を変えることなく効率化が可能となる。

さらに、売掛金の回収保証サービスも提供。フリーランスには難しい取引先の与信審査などをしなくても、少額の料金を万一の取引先の倒産にも備えることができる。執行役員 奥村健太氏は、「将来的には、請求したら即入金されるようなサービスを目指しています」と語っている。

クラウド請求管理サービス「Misoca」

MISOCA

見積・納品・請求書を作って、送って、管理できるサービス

請求書をエクセルやワードで作って、印刷して宛名を書いて切手を貼って投函してと、請求業務って面倒ですよね。経理事務は大事な仕事ではありますが「もっと重要な仕事に時間を使いたい」「請求業務を効率化したい」と思ったあなたには無料のクラウド請求管理サービス「Misoca(ミソカ)」がオススメです。見積書から納品書や請求書を作ったり、毎月の請求書を自動作成したり、郵送をあなたに代わって自動で完了したりと充実の機能で請求業務を劇的に改善します。小規模事業者向けに作られているため操作はとても簡単。基本機能は無料で使えます。

クラウド請求管理 Misoca の特徴



見積書から受発注・請求書まで業務をカバー



業務効率化のための機能やサービスが充実



もちろん会計ソフトとも連携



基本機能は無料



株式会社Misoca
代表取締役
豊吉隆一郎氏



株式会社Misoca
執行役員
奥村健太氏

将来的に企業間取引のプラットフォームを目指す

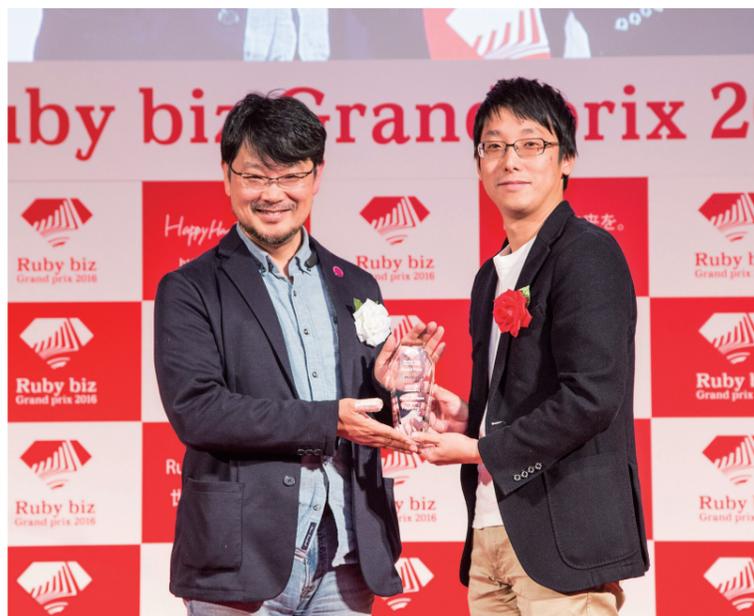
そもそもMisocaの創業は、豊吉氏が共同創業者の松本哲氏と『たのしいRuby』の読書会を開催したことに端を発する。名古屋での地域Ruby会議を2度開催し、2011年からRuby Kaigiの請求書スポンサーになるなど、Rubyコミュニティにも積極的に貢献。社員も8割がRubyエンジニアであり、開発者が直接ユーザーに会って、求める機能を確認している。だからこそ、フリーランスのニーズに応えるサービスを充実させることができるのだ。

同社は、将来的に企業間取引のプラットフォームを目指しており、その実現のために経営基盤を強固なものにしようと、2016年2月弥生株式会社の子会社となった。Misocaという名前は、月末の晦日から来ており、月末の業務を楽にしたいという思いでつけられている。「実は弥生も同じで、決算期が多い3月が社名の由来だそうです。2014年に弥生と業務提携をする際、同じ思いだとわかり、先方にインパク

トを与えたようでした。」(豊吉氏)
同社は働き方もユニークだ。本社は名古屋で松江にもオフィスがある。2016年松江在住のエンジニアを採用した縁で、全員で“Rubyの聖地”松江を訪問。「ここに拠点を作ったらおもしろいことになる」(奥村氏)と松江オフィスオープンした。また、基本的に残業がない。豊吉氏は、「経営もプログラミングに近いとっていて、動き続けたいと意味がありません。だか

ら効率よく働き、私はいつも18時ごろには帰ります。今はそれが完全に定着して、私や役員が残っていても、みんな気にせず帰っています」と笑う。

最後に豊吉氏は、来年以降応募を考えている企業に対し、「今回応募するにあたって、自分たちの歴史を振り返ることができました。足元を見つめるいいきっかけにもなります。Rubyを使っているならぜひチャレンジしてほしいですね」と語った。



審査委員長のコメント

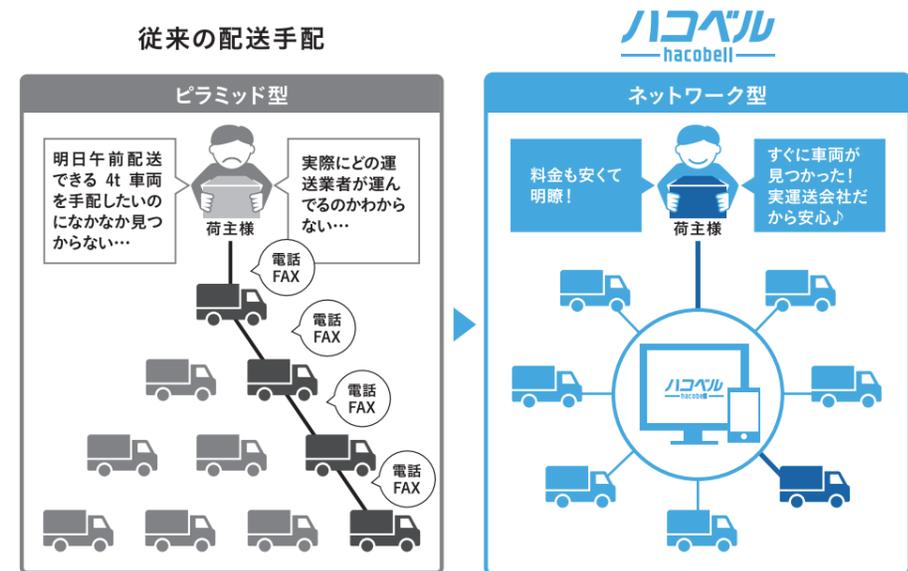
郵送までやってくれるユニークなサービス。企業間取引のプラットフォームを目指すという志は高く、将来の可能性を含めて評価した。

大賞 ラクスル株式会社

オンライン求貨求車サービス「ハコベル」

安い・早い・安心のオンライン求貨求車サービス

ハコベルは、荷主と運送会社をオンラインで直接繋がることで無駄を省き、より「安く」、より「早く」、より「安心」して配送案件を依頼できる仕組みです。



荷主と運送業者をマッチングし安価で迅速な運送を実現

ラクスルは、同名のネット印刷通販を提供する企業として知られているが、今回受賞したサービスは、オンライン求貨求車サービスの「ハコベル」である。ラクスルが、印刷会社の印刷機が空いている時間を埋めることで安価にサービスを提供するように、ハコベルも空いているトラックを

活用することで、安価に迅速に運送サービスを提供する。

荷主と運送業者を直接マッチングすることで中間マージンをカットでき、双方にメリットのある価格でサービスを提供。オンラインで運送会社に一斉に情報提供するので、平均4分*という短時間でマッチングができる。さらにハコベル エンジニア 蟻塚正樹氏は、「中小や個人の運送業者に初めて頼むのは不安があると思

ますが、ハコベルなら評価の仕組みがあるので、安心して頼めると好評です」と語っている。

輸送にあたっては、運ぶ物によって必要となるトラックやドライバーが異なり、その時の天気や道路の状態なども異なるため、そのマッチングロジックは複雑だ。「たとえば雪の日には注意が必要ですし、順番に配送していくような場合は、効率的なルート検索なども必要となってきます。

* 2016年6月2日までのマッチング時間中央値(ラクスル調べ)



ラクスル株式会社
執行役員CTO
泉雄介氏



ラクスル株式会社
ハコベル エンジニア
蟻塚正樹氏

リアルな世界では、机上では予想もつかないさまざまな課題が起きるので、それに対応するのに頭をつかいますね。逆に言えば、そういうリアルな課題を解決することで世の中をもっとよくしたい、と考えるようなエンジニアには、魅力的な仕事だと思います」(蟻塚氏)

リリース1か月前に言語を変更 この速さはRubyだからこそ

実はラクスルがハコベルの開発を始めたときの開発言語はPHPであった。2015年8月のことである。しかし、10月末に問題が発生。そのまま開発を続ける選択肢もあったが、蟻塚氏は「長い目で見ると、今この時点で開発言語を切り替えておくしかない」と判断。泉氏に対し、「開発言語をRubyに切り替えたい」と持ち掛けた。ハコベルのパブリックリリースは12月と決まっており、残された時間が約1か月という時期である。

泉氏は、「12月に間に合うならいいよと言ったところ、やるということで任せました。1か月でできたのは、やっぱりRubyだったからでしょう。

エンジニアが楽しくプログラムでき、ゴールに最短でたどり着くことができる。他の言語でもできたかもしれませんが、そこにパッションがあったかという点、ちょっと疑問です」と語っている。

同社のビジョンは、「仕組みを変えれば、世界はもっとよくなる。」であり、泉氏は、「この仕組みを変えるところが、エンジニアの仕事だと思って

います。たとえば運送業で言えば、下請け構造により現場の人の処遇がよくないという現実がある。それをハコベルのようなしくみでユーザーと現場をダイレクトにつなぎ、古い業界を変えていきたい。当社はそれをまじめに実現させている会社です。リアルな世の中をもっとよくしたいというエンジニアの方にぜひ参加してもらいたいと思っています」と語った。



審査委員長のコメント

民泊やライドシェアなど消費者同士のマッチングビジネスで広がるシェアリングエコノミーを、ビジネス領域へと拡大した点が評価された。

「Ruby biz Grand prix 2016」を彩る

開発、コミュニケーション、健康・医療など 多岐にわたる多彩なサービス

Rubyの持つ可能性を、日本から世界へと発信する「Ruby biz Grand prix 2016」。その概要から、受賞企業、彼らが手掛けたRubyの活用事例を紹介する本連載も、いよいよ最終回。今回は、特別賞3社とグローバル賞1社、さらにソーシャルイノベーション賞2社の計6社に話を聞いた。いずれも高い志と卓越したアイデアで、世の中を変える可能性を持ったユニークなサービスばかりだ。

特別賞 株式会社アクトキャット



株式会社アクトキャット
CEO & Engineer
角幸一郎氏

日本初のRubyによる コードレビュー自動化ツール

アクトキャットが受賞したのは、コードレビュー自動化ツール「SideCI」である。今やプログラミングに欠かせないソースコード管理サービス「GitHub」の公式ツールとなっており、GitHubとの連携にも対応。従来はレビューを依頼されたレビューアーが目視で実施していたコードレビューを一部自動化できるので、レビュー業務の効率化に有効だ。導入も極めて容易なので、簡単に全社で

コードレビュー自動化ツール「SideCI」

コードの自動解析でチームの生産性を向上させる

SideCIはスタートアップから上場企業まで世界中の様々な組織で利用されているGitHub連携コードレビュー自動化サービスです。

| 解決する課題 | | |
|---|--|---|
| コードレビューに膨大な時間が取られてしまう | エンジニアのスキル差により一貫性のあるレビューができない | コーディング規約が統一されておらずコードの可読性が低下 |
| 所要時間20%削減 | チェック率100% | 規約浸透率100% |
| レビューの一部自動化 <small>指摘観点の一部自動化により本質的なレビューに時間を割くことが可能</small> | 品質の向上 <small>抜け漏れのない指摘によりソースコードを高品質に保つことが可能</small> | コーディング規約の統一 <small>規約違反検知により保守性と生産性が高いソースコードの保持が可能</small> |

SideCI導入時の開発フロー

- 1 プルリクエスト作成
- 2 レビューがコードレビュー
- 3 レビューが要件や動作を確認
- 4 コードを修正
- 5 レビューがマージ

SideCIがレビューアーの代わりに自動でレビュー

対応プログラミング言語

利用を開始可能。手間をかけることなく、バグやセキュリティホールといった不具合を見つけやすくなるだけでなく、コーディング規約に対する個々の認識のズレを調整し、ベストプラクティスなコードに統一しやすくなる。その便利さが評価され、既に世界中の400以上の都市で、多くのエンジニアに利用されている。

アクトキャット CEO & Engineer 角幸一郎氏は、「より多くのエンジニ

アの生産性向上に役立ちたいと思っています。さらに強力なツールへと進化させ、世界中のエンジニアに使われるデファクトスタンダードを目指しています」と意欲を語る。

同社のワークスタイルはユニークで、コーディングに集中したい日などはリモートワークも可能。特に月曜日は、強制的なりリモートワークの日となっている。これは、複数のタイムゾーンにメンバーがあり、今後さらに

審査委員長のコメント

CI(継続的インテグレーション)とコードレビューを組み合わせたオープンソースツールは画期的。エンジニアとして、とても興味がある。

多彩な人材が参加することを見越して、どんな環境の人でも働きやすい会社になりたいと導入した制度だ。また、書籍の購入や勉強会への参加を会社として奨励しており、エンジニア

の成長を強力にサポートしている。新たなエンジニアの参加に期待していると角氏は、「エンジニアは常に開発の生産性を上げたいと思っており、そのためのツールを自作したりし

ます。アクトキャットなら、それが仕事となります。その分、技術的難度も高いわけですが、成長意欲が高く、生産性にも敏感なエンジニアにとっては、魅力的な仕事だと思います」と語った。

特別賞
株式会社ジモティー

地域の課題を解決する
社会インフラを目指す

同名の地域情報掲示板「ジモティー」で特別賞を受賞したジモティー。誰でも無料で利用でき、不用品の売買やペットの里親探し、バイトの募集などさまざまな情報を交換できるサービスだ。この種のサービスは掲載側に費用が発生する場合も多いが、ジモティーは掲載も無料。その名の通り地域を限定して情報を提供するので、たとえば大型の家具・家電の売買などに有効だ。

ジモティー CTO 鈴木智之氏は、「大型家電などは捨てるだけでお金も手間もかかりますが、近所の欲しい人に取りに来てもらえれば、お互いメリットがあります。地域の今を可視化することで、潜在ニーズのマッチングを行っています」と語る。同社は「生活の中で生まれる問題を地域の人同士で補い合える仕組みをつくること」を使命としている。2016年11月の月間利用者数は、約650万人。「お得な情報を探して毎日訪れるようなヘビーユーザーも結構いらっしゃいます」（鈴木氏）。

ジモティーのユーザーは多岐にわ

たり、必ずしもデジタルスキルに長けた人とは限らない。そのため、使い勝手が悪くなければすぐに使われなくなってしまう。そこで、ユーザーのフィードバックを聞きながら、素早い改善を続けている。Rubyで作っていることが、その実現に極めて有効と鈴木氏は次のように語る。「Rubyはコミュニティが活発でライブラリが揃っており、プロトタイプを動かすところまでが非常に速い。1日数回デプロイすることも少なくありませんが、15人のエンジニアでこれができるのは、Rubyの高い生産性に負うところが大きいと思っています」。

同社は今後、社会のインフラとなっていきたいと、鈴木氏は次のよ



株式会社ジモティー
CTO
鈴木智之氏

うに意欲を語る。「インフラとなるには、まずユーザー数を増やすことが重要で、今はこれに注力しています。その結果、地域の課題を解決し、地域活性化などにも貢献していければうれしいですね」。

地域情報掲示板「ジモティー」



審査委員長のコメント

バーチャルと対面の中間という、極めてユニークなサービス。海外には同じようなサービスがあるが、日本では珍しい試みで、今後に期待。

特別賞
ユニファ株式会社



ユニファ株式会社
取締役CTO 兼 システム開発管掌
赤沼寛明氏

保育園が手間なく
写真を販売可能
探す手間も軽減でき、
保護者も満足

ユニファが特別賞を受賞したサービスは、保育園・幼稚園・習い事教室向けのインターネット写真・動画サービス「るくみー」である。たとえば、保育園で運動会などの行事があると、保育士などが写真や動画を撮影する。それを販売する場合、保護者にプリントアウトを見せて欲しい写真を申請してもらう方法では、来園時しか見せられず、一度に一人しか見られないので、手間も時間もかかる。一方Webサイトにアップして見てもらえば園側は楽だが、保護者は大量の写真の中から子どもの写真を探し出す必要があり、その手間もまた膨大だ。

るくみーは、このような膨大な写真の販売を手軽に行えるサービス。専用アプリで撮影すれば自動転送さ

保育園・幼稚園・習い事教室向けの
インターネット写真・動画サービス「るくみー」



導入費、月額利用料ともに**無料**のため、園や教室に金銭的なご負担が一切かかりません。

れるため、デジカメで撮影して一旦パソコンに移し、アップロードするという手間がかからない。また、顔認識機能により、保護者はたくさんの写真の中から自分の子どもが写っている写真だけを簡単に選択可能だ。さらに、ユニファ 取締役CTO 兼 システム開発管掌 赤沼寛明氏は、「保護者に写真の購入代金を負担してもらうので、園は費用負担なく利用できます。アップロードが簡単なので、イベントの時だけでなく日常の写真も見ることができ、保護者からも非常に満足してサービスをご利用いただいています」と語っている。

同社のエンジニアのバックポー

ンは多彩で、必ずしもRubyエンジニアばかりとは限らない。赤沼氏は、「Rubyは学習しやすいので、一定のプログラミングのスキルがある人なら、比較的容易に開発できるようになります。創業してすぐにサービスのローンチまで漕ぎ着けたのは、Rubyを使ったからこそだと思います」とRubyのメリットを語っている。

最後に赤沼氏は、「保育業界は、まだまだアナログな世界なので、デジタル化に貢献し、効率化することで現場の保育士が楽になり、保育の質を高めることに貢献したい」と抱負を語った。

審査委員長のコメント

まだまだデジタル化が進んでいない幼稚園・保育園に向けたITサービスというところを評価した。

グローバル賞
Planio GmbH



Planio GmbH
CEO
Jan Schulz-Hofen氏

日本進出を果たした
世界的な
プロジェクト管理サービス

ドイツ ベルリンの会社Planio GmbHがグローバル賞を受賞したプロジェクト管理クラウドサービス「Planio」は、オープンソースのプロジェクト管理ソフトウェア「Redmine」をベースに、チームチャットやヘルプデスクなどの機能を強化し、ユーザーインターフェースをより使いやすく洗練したサービスである。優れた機能に加え、迅速な導入が可能で、直感的に使い始めることができ、手厚いサポートが含まれている点などが評価され、既に世界98カ国、約1500社で使われている。

今回同社がRuby biz Grand prix 2016に応募したのは、協力企業であるファーエンドテクノロジーに勧められたからだ。ファーエンドテクノロジーは、RedmineのSaaS「My

Redmine」を2009年から提供し、Redmineの日本語情報サイト「Redmine.jp」を運営するなど、日本におけるRedmineの普及を牽引してきた島根県松江市の企業である。Planio GmbHは、2016年このファーエンドテクノロジーと提携した。Planio GmbH CEOのJan Schulz-Hofen氏は、「今回ファーエンドテクノロジーとの提携により日本語化を実現し、日本で充実したサポートを提供できるようになりました。そんななかRuby biz Grand prix 2016で受賞でき、とても誇らしい」と語っている。

同社はベルリンにあるが、社員はオフィスに来る義務はなく、リモートワークも可能。フィリピン在住の社員もいる。Schulz-Hofen氏が、「ただ

し、年1回は必ず全員で顔を合わせます。それは必ずしも会社である必要はなく、たとえばどこかのビーチに集まってもいい。毎年どこに行こうかと、考えるのも楽しみなんです」と語るように、アットホームで結束の固いチームワークが感じられる企業だ。

同社はファーエンドテクノロジーの協力を得て、日本でのビジネスも進展を見せている。最後にSchulz-Hofen氏は、「今回の受賞で、さらに日本での知名度が高まることを期待しています。既に大手企業との契約の話も進んでおり、より多くの日本企業にPlanioを使ってもらいたい。Planioを活用して、より効率よく、楽しいプロジェクト管理を実現してもらえたら嬉しいですね」と期待を語った。

プロジェクト管理クラウドサービス「Planio」

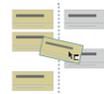


開発チームに必要なツールと情報は、
すべてここにある。

Redmine を美しく高機能に改良したプロジェクト管理クラウドサービス

Planioはプロジェクト管理のためのクラウドサービスです。オープンソースのプロジェクト管理ソフトウェア「Redmine」をドイツのPlanio GmbHが美しく、高機能に改良して提供しています。

アジャイルで使う



Agile board

ドラッグ&ドロップによってチケットのステータスを更新することができます。コンテキストメニューで担当者の変更などもできます。

リポジトリと連携する



Git&Subversionリポジトリ

Git、SubversionそしてBitBucketのリポジトリをサポートしています。プロジェクトと連動したプライベートリポジトリを無料かつ無制限で作成できます。

お客様サポートに使う



CRM

お客様からのお問い合わせに対し自動で返信したり、チケットを自動で作成するCRM機能はカスタマーサポートに最適です。

審査委員長のコメント

Planioは、Redmineを大幅に機能拡張しているが、それをRedmineにフィードバックしており、オープンソースに対する貢献が非常に高い。多くのRubyエンジニアはRedmineユーザーでもあるので、エンジニアとしても評価している。

ソーシャルイノベーション賞
正興ITソリューション株式会社



正興ITソリューション株式会社
代表取締役社長
有江勝利氏

国を挙げた健康寿命延伸を
ICTでサポート

2015年9月総務省は、日本の総人口に占める65歳以上の割合が過去最高の26.7%となったと発表した。このような超高齢社会に突入した日本の大きな課題のひとつが、医療費の高騰である。正興ITソリューション代表取締役社長 有江勝利氏は、「税金から支出される医療費だけで、年間約1兆円ずつ増えています。このままでは国が潰れる」と危機感を募らせている。そこで、同社が開発したのが、今回ソーシャルイノベーション賞を受賞した健康経営支援サービス「Health-Ledger(ヘルスレジャー)」である。

Health-Ledgerは、従業員の健診データや生活習慣、食事などの健康情報をデータベース化して見える化。本人の自覚を促すと共に、産業医などからSNSでアドバイスも受けられる。また、ゲーム感覚で楽しく運動をするためのコンテンツも用意して

審査委員長のコメント

ゲーム仕立てでトレーニングできる面白いサービス。特に、mRubyとRaspberry Piを活用した虚弱予防アプリ「起立の森」は、高齢者のやる気を引き出す面白い試み。

健康経営支援サービス「Health-Ledger」



サービスの内容

- 1 セルフメディケーションシステム**
「健康状態の見える化」「生活習慣改善プログラム」「ほけんSNS」により、社員自ら自身の健康状態を改善させます。
- 2 ほけん業務システム**
産業医・保健師向けの業務システムです。データ管理による業務効率向上により、保健指導業務に時間を多く割り当てることが可能になります。
- 3 楽しく運動したくなるコンテンツ(順次拡大中)**
■楽しく歩行を促すゲームアプリ「PocketWalkingTrainer」
■職場のみんで楽しく運動「10分間ランチフィットネス」
■起立運動を楽しめるシリアスゲーム「起立の森」

サービスの特徴

- 1 クラウドサービス**
設備投資が不要、インターネットがあれば利用可能です。
- 2 九州大学との共同研究**
生活習慣改善プログラムにより行動変容を促し改善効果が期待できます。
- 3 バイタルデータの自動取込み**
■活動量計、体重計、血圧計との連携
■社員食堂利用者の食事カロリー等をシステムに取込み

おり、このサービスを利用することで社員やその家族が健康になり、会社としても貴重な人材を病気で失うリスクや医療費の負担を軽減する効果が期待できる。

福岡にある同社グループは、2013年から自社グループでこのサービスを実際に利用しながら九州大学と共同研究を実施。場所や時間を問わずシステムにアクセスできるようになり、さらにアドバイザーからのフィードバックを受けることで、「個別の継続的なフォローアップツールとして十分に利用価値がある」と判定された。自社での実践を有江氏は、「今のところ積極的に利用している社員は20%程度ですが、これらの人たち

では、若干ながら健診結果でも異常なしが増え、要二次検査や要受診が減少しました。以前は生活習慣病予備軍が増加傾向にあったので、一定の効果がありました」と語る。

生産性の高さから従来Rubyを利用してきた同社では、本サービスのサーバーサイドのシステムをRubyで、フロントのセンサー制御機構をmRubyで開発した。「2016年には外部へのサービスを開始し、現在、地元の金融機関にご利用いただくなど、実績もできてきました。APIも充実させており、他ベンダーのアプリケーションなどとも連携していきたい。企業から家族、さらには社会へと、健康寿命の延伸をサポートする新しい市場を創出していきます」と(有江氏)。

ソーシャルイノベーション賞
株式会社メドレー



株式会社メドレー
取締役 開発本部長
平山宗介氏

いち早く

遠隔診療サービスを提供

メドレーがソーシャルイノベーション賞を受賞したサービスは、オンライン診療アプリ「CLINICS(クリニックス)」である。パソコンやスマートフォンで、診療の予約や問診、医師との会話、決済などができ、現在、北海道から沖縄まで全国約200の医療機関に導入されている。

メドレーは、2015年8月の厚生労働省の通達により、遠隔診療が事実上解禁となったことを受け、CLINICSの開発に着手。要件定義確定後の12月末に開発を開始し、2016年2月にはいち早くサービスをスタートできた。「このスピード感で開発できたのは、やはりRubyならではです」と、メドレー 取締役 開発本部長 平山宗介氏は語る。

遠隔診療は事実上解禁されたとはいえ、まだグレーな部分も残る。「そ

オンライン診療アプリ「CLINICS」



スマホやPCで診察を受けて、薬や処方せんも自宅で受け取れる医療サービスです。なので、移動時間や待ち時間の心配がなくなります。

常備薬が必要な生活習慣病の方や、禁煙外来をご利用の方、アレルギーの薬が必要なお客様など、すでに多くの方にご利用いただいています。

従来の通院体験を向上させるほか、忙しい方、病院へ通うのが困難な方の継続的な治療を支援することを目指しています。

CLINICSの特徴



24時間いつでも
可能な診察予約



医師との情報共有を
容易にするオンライン問診



通院の負担を減らす
オンライン診察



かんたんカード決済
薬・処方せんも自宅に届く。

こを、CLINICSを利用することで、法に則った形で手軽に実現できるようになります。常備薬が必要な生活習慣病の方や、禁煙外来を受診している方など、こまめな通院が必要だけれども、それが負担となっている患者さんに好評です(平山氏)。

メドレーは、「医療ヘルスケア分野の課題を解決する」というミッションを掲げ、本気で医療とITのコラボレーションに取り組んでいる。技術力はもちろんのこと、実際に医療現場の課題に精通した医師が5名常勤し、開発チームと席を並べ対等に議論して

いるのが、同社の大きな強みだ。

とはいえ、医療系のシステムは現状、導入作業が必要な業務パッケージがほとんどであり、このようなインターネットサービスはかなり珍しい。平山氏は、「こういうサービスもあるということ、エンジニアの方々にアピールしたいと、今回Ruby biz Grand prix 2016に応募しました。デジタル化が遅れている医療へのIT活用を進め、世の中を変えたいという意欲のあるエンジニアに、ぜひ参加してほしいですね」と期待を語った。

審査委員長のコメント

「初診は対面が必要」など、制限がありながらも可能になった遠隔診療を、手軽に実現する新しいサービスにより、いち早く医療の課題を解決した点を評価した。

2017年 第3回 Ruby bizグランプリ 栄光を勝ち取れ!

2017 The 3rd Ruby biz Grand prix Strive for the prize!

<http://rubybiz.jp>



Rubyを使った自社商品・サービス等で、新規性、独創性、市場性、将来性に富んでおり、今後継続的に発展が期待できるビジネス事例を募集します。

Rubyで「新しいものを作りたい」「世の中を楽しくしたい」「思いを伝えたい」

変化に柔軟でスピーディな開発が可能なRubyを選んだからこそ、新たなビジネス価値を見いだせた。そんなサービス・商品を表彰し、さらなる飛躍に向けて世界へアピールし、ビジネスの進化・企業の成長に挑戦する取り組みを支援します。

| | |
|-------|--|
| 目的・趣旨 | プログラミング言語Rubyの特徴を活かして、新たなサービスを創出しビジネスを継続的に展開している事例を顕彰することにより、Rubyによるビジネス展開の優位性を国内外に広くアピールしRubyでのビジネスチャンスのさらなる拡大を目指します。 |
| 主催 | Ruby biz グランプリ実行委員会 |
| 応募資格 | 企業、団体及び個人(任意団体を含む) |
| 応募事例 | 概ね1年以上ビジネス展開している国内外のサービス開発事例等 |

お問い合わせ

Ruby biz グランプリ実行委員会事務局（島根県商工労働部産業振興課情報産業振興室）
0852-22-5621 rubybiz@joe2.pref.shimane.jp